

筑豊からの『石炭ロード』が、日本近代化産業の扉を開いた

～ 折尾は、石炭輸送の「水運（堀川運河）から「陸運（鉄道）」への 移り変りが見られる場所 ～

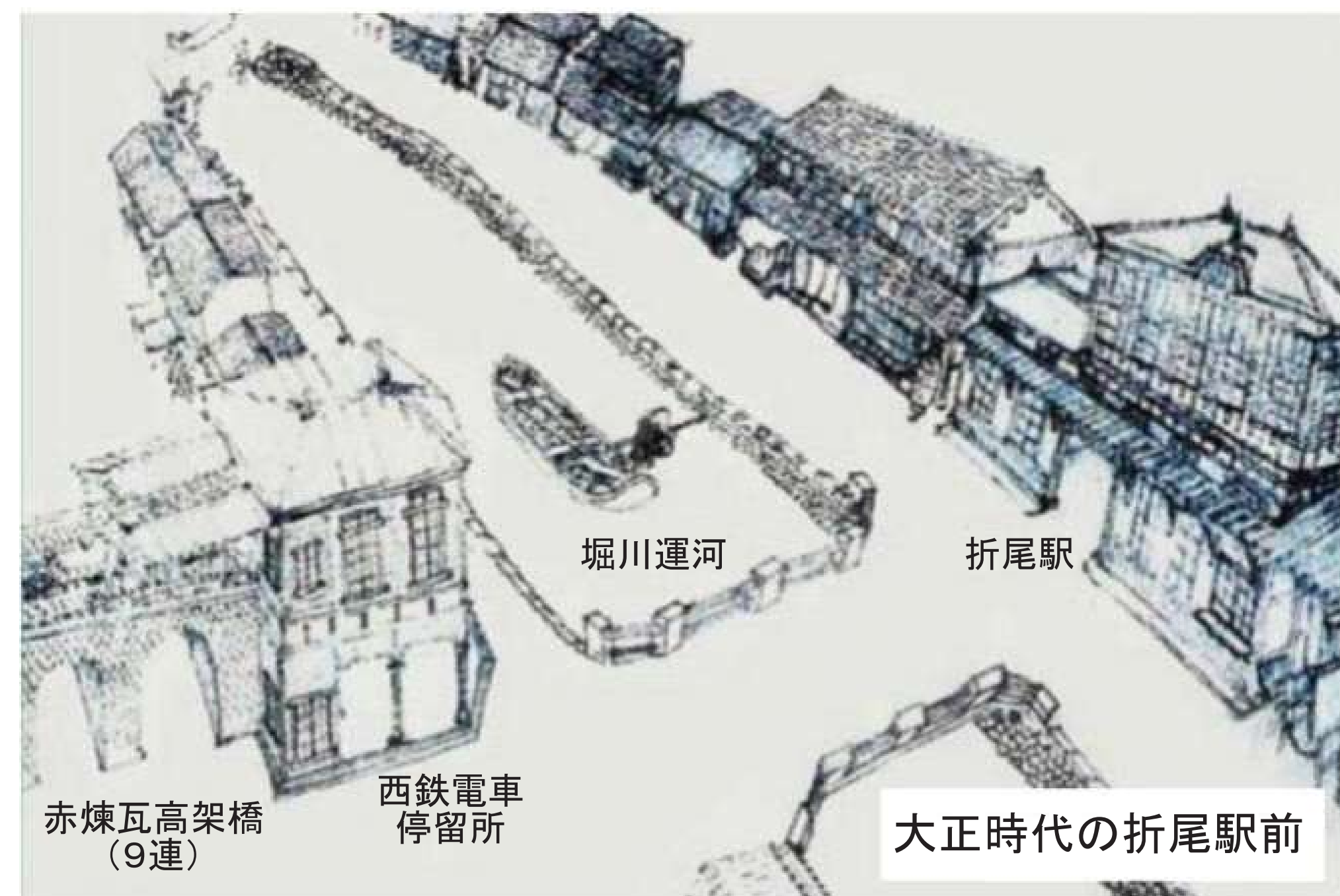
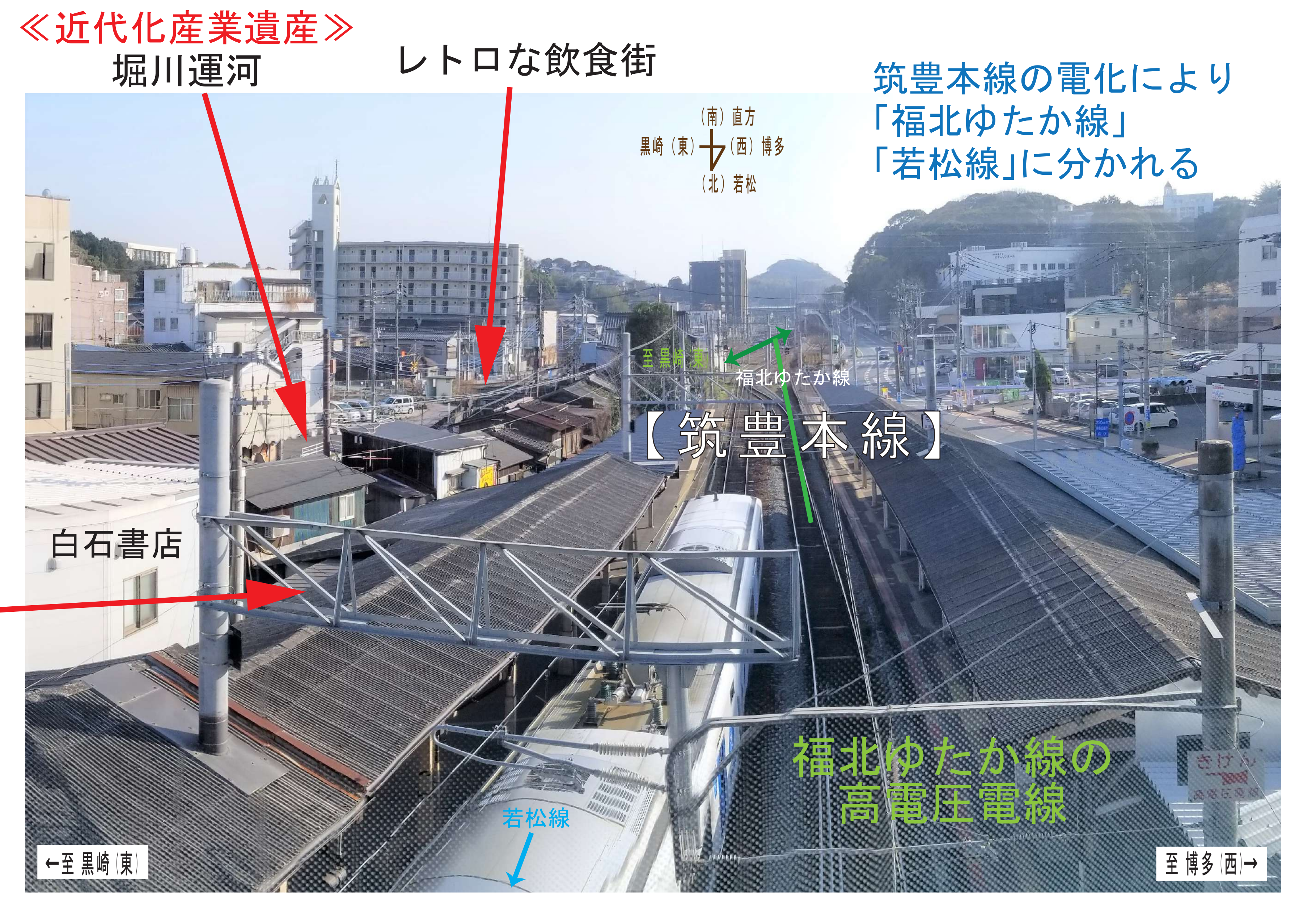


鹿児島本線



折尾のルーツ！ 日本初・立体交差駅

＝ 鹿児島本線と筑豊本線が ほぼ直角に交わる ＝



イラスト提供: 佐藤 宣勝

＝ 折尾の誇り ＝

日本近代化産業の礎を築いた『鉄道』と『堀川運河』

《近代化産業遺産》 【堀川運河】

183年の歳月をかけ完成した人工の川『堀川運河』
「官営八幡製鐵所」誘致の要因の1つは『堀川運河』で、筑豊の石炭を運べたから
毎年、約100校の小学生4年生が学び見学にも訪れる
(八幡西区・中間市・水巻町)

【鷹見口】駅の一部が150m離れる珍しい駅



【折尾紹介】歴史や文化、学生の街

【動画】旧・折尾駅 約125年の歴史

折尾のシンボル【折尾駅】

駅舎内の中心 外観の中心



東京駅が皇居から真正面に見えるのと同様
1916(大正5)年 駅舎の正面が通りの真正面に見えるように工夫して増築された駅
2013(平成25)年 折尾駅舎解体

《ブルーリボン賞 受賞 2017年》 『DENCHA(デンチャ)』 ＝次世代型車両＝



～ 人と地球の未来にやさしい ～

【架線式蓄電池電車】
架線の無い区間は、蓄電池のみの電力走行
ブレーキ時に発生する回生エネルギーを蓄電池に充電することで高効率を実現
2016(平成28)年～



【筑豊本線の電化】



2001(平成13)年
立体交差下の高さが低いため高電圧電線を通すことができず筑豊本線は、非電化区間(若松線)電化区間(福北ゆたか線)に分かれ「愛称」で呼ばれるようになった

◆「若松線」: 折尾駅⇨若松駅
気動車(ディーゼル)
※2017(平成29)年廃止

◆「福北ゆたか線」: 折尾駅⇨直方駅方面(短絡線) : 黒崎駅⇨中間駅
※「愛称: 福北ゆたか線」の由来 福岡市(福)・北九州市(北)・筑豊地区(豊/ゆたか)を結ぶ線

乗換えが不便という乗客の声で鉄道が交差するこの場所に駅ができた「立体交差駅」として作られおらず筑豊本線に蒸気機関車が通過する度に交差部分から煙が吹き上げた



立体交差の上



上部: 蒸気機関車のススで真っ黒

下部: 蒸気機関車の蒸気で綺麗な赤煉瓦色だった

〈筑豊本線 若松側の踏切より〉



約125年間、赤煉瓦造りの橋台は鉄道開通当初のまま使用された
1891(明治24)年～
2017(平成29)年1月1日

〈筑豊本線 2番ホームより〉



鹿児島本線 3番ホームの裏側と折尾駅舎の裏(2階部分)

石炭輸送を鉄道に奪われ恨めしそうに眺める舟頭 (作品: 山本作兵衛)



【舟頭と陸蒸気】田川市石炭・歴史博物館/所蔵

1840(天保11)年頃
筑豊地方で掘られた石炭は川ひらたに積み入れ『堀川運河』を通り若松へ運ばれた

1891(明治24)年
石炭を大量に早く運べる『筑豊興業鉄道』開通

1901(明治34)年
「官営八幡製鐵所」創業

1938(昭和13)年
『水運』時代 終了

【レトロな飲食街】 折尾駅 東口横



昼間: 間口の狭い店が建ち並ぶ



夜景: 水面に映るネオンが美しい

【折尾名物 東筑軒 かしわめし】



1921(大正10)年 折尾駅で弁当販売開始
創業以来変わらない門外不出の一子相伝の味。古き良き時代の情景を思い起こすホームでの「立ち売り」も健在！